

春学に向けての合言葉

「仲間と共に親神様のご守護に感謝し、心明るく笑顔で通ろう」

「立教 187 年 春の学生おぢばがえり」では、「にこにこになっちゃう春学」を目指します。にこにこになっちゃう春学とは、みんなが自然に笑顔になれて、心の底から楽しい！有り難い！と思えるような春学です。このような春学を道につながる学生みんなと作りたいたいと思い、「仲間と共に親神様のご守護に感謝し、心明るく笑顔で通ろう」を合言葉とし、みんなで心一つに通っていきたいです。

そのために、みんなで身のまわりの有り難いことに気づき、たすけ合って笑顔になろうという心を大切にしましょう。自分だけが笑顔になるのではなく、仲間と共に笑顔になれる行動をすることが大事です。笑顔になる方法に正解はなく、人やタイミングとさまざまだと思います。仲間がどうしたら笑顔になってくれるのかを考えて行動しましょう。誰かの笑顔のためにたすけ合うことで、たすけ合える仲間がいることや、人のために身体を使うことができる有り難さに気づくことができ、心は明るくなり、自然と笑顔になれます。また、身のまわりの有り難いことに気づき、ご守護に感謝して笑顔で通っている姿は、周りの人も笑顔にすることができます。時には笑顔になれないこともあるかもしれません。そんな時は仲間がたすけてくれます。仲間とたすけ合うことで、身のまわりの有り難いことに気づけて、心が明るく前向きになれます。互いにたすけ合いながら、みんなの笑顔のために心明るく前向きに通る姿を、親神様・教祖は喜びくださいます。誰かの笑顔のために行動することは、必ず誰かの笑顔につながります。春学に向けて仲間と共に、親神様のご守護に感謝し、心明るく通っていきましょう！

<実践項目>

○人のために心を遣う

人のために心を遣うとは、誰かに喜んでもらいたい、たすかってもらいたい、という心です。例えば、話を聴く、話をする、一緒に教会へ参拝に行くなど、その人が笑顔になるために心を遣いましょう。また自身が仲間に頼ることも心を遣うことの一つになります。もし、自分がつらい、苦しいと感じている時は、1人で抱え込まず、仲間を頼ってください。そうすれば必ず仲間は助けてくれますし、その方が、頼られた側は嬉しいと思います。そして、次にその人が困った時は、きっと自分を頼ってくれると思います。人のために心を遣い、たすけ合いながら通り、笑顔になれるように心掛けましょう。

○をやにもたれる

をやにもたれるとは、親神様・教祖の教えを素直に信じ切って通ることです。実践方法は、おつとめやひのきしん、教理勉強などさまざまあります。をやにもたれて通ることで、身のまわりの有り難い事に気づき、日々の親神様のご守護に感謝することができます。教えが分からないという人は、まずはできることから実践してみてください。例えば、息ができている、体が動かせるなど、身のまわりの有り難いことにたくさん気づけます。実践していく中で、教えの意味がだんだん心に治まっていきます。仲間と共に実践することで、1人だけでは気づけない有り難いことに気づけたり、仲間が教えてくれたりします。ご守護に気づけると、感謝の気持ちであふれ、心は明るくなり、自然と笑顔になれます。日々仲間と素直にお道の教えを実践し、つらい時こそをやにもたれ、身のまわりの有り難いことにたくさん気づき、親神様のご守護に感謝することが笑顔につながると思います。